

名東区の今昔

写真と資料展～亜炭鉱とため池を中心に～

2月5日(水)～2月20日(木)

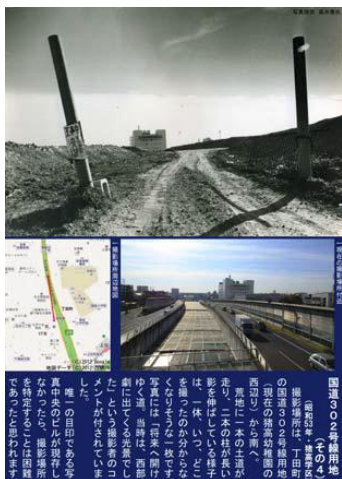
(10日、17日は休館)

9:30～19:00(日祝は～17:00)

名東図書館 集会室 ほか

(15日はとしょかんまつりのため集会室展示はご覧できません)

昭和30年代に始まる区画整理事業により、名東区はのどかな農村地帯から、名古屋のベッドタウンに変貌。今や16万人をこえる人々が暮らす区となっています。



名東区は低い丘や谷が続く地形のため、水の便が悪く、江戸時代からたくさんのため池がつけられました。現在は10か所程度が残っています。

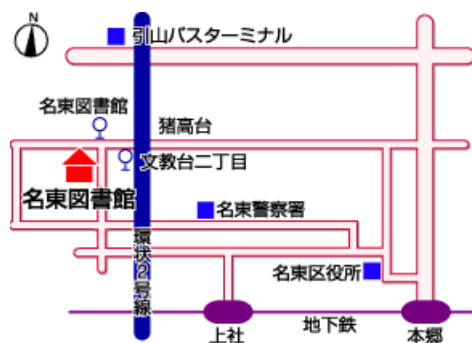
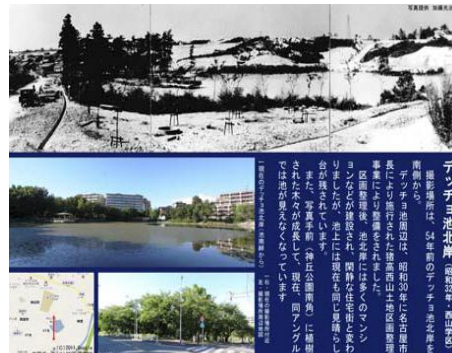
当時の鉱夫さんの歌声と、蟹江尾八先生(民謡家)が復活演奏された貴重なCDが会場で聞けます！

昭和20年代まで、高針を中心に亜炭が盛んに採掘されました。

♪ 鉱夫唄や ♪ ポンプ唄がうまれ、亜炭を運ぶ荷馬車でうまった高針街道は「黒街道」とよばれました。



「写真集愛知百年」より



名古屋市名東図書館

名東区文教台2-205

電話：052-773-8200

Fax：052-773-8239

名東区誕生の経緯

1906(明治39)年

猪子石村と高社村が合併、猪高村が誕生する。

1955(昭和30)年4月5日

猪高村は名古屋市と合併、千種区猪高町となる。

1975(昭和50)年2月1日

千種区から分区して、名東区が誕生する。